

ふじのくにの地域外交

将来に向け戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高めていく静岡県の地域外交。

1982年に友好協定を締結し、地域外交との先駆けとも言える中国・浙江省との交流について紹介する。

中国・浙江省編

30余年の交流が育んだ深い信頼関係と大きな将来性

民間レベルでの交流拡大を象徴するスポーツイベント

今年8月、小笠山総合運動公園エコーパ（袋井市）で「静岡県・浙江省友好交流卓球大会」が開催され、両県省合わせて11人の招待選手を含む、総勢約290人が熱戦を展開した。国際的なスポーツ大会さながらの緊張感は、親善イベントとは思えないほどの熱気を帯びていたが、試合が終わると有名選手と写真を撮影するなど、会場は和やかな雰囲気包まれていた。中でも静岡県出身の水谷隼選手（男子 高校・一般の部優勝）と伊藤美誠選手（女子 高校・一般の部3位）は、中国でも知名度が高く、対戦した浙江省の選手も「いい思い出になった」と語っている。

同大会は、30年を越える友好関係にある静岡県と浙江省における、民間レベルでの交流の拡大を象徴するイベントでもあり、会長は川勝平太静岡県知事が務めた。大会前日には、浙江省側の招待選手5人が本県の中高校生約100人に対して、卓球の技術や練習方法のレクチャーを行うなど、大会以外でも交流を深めている。

中国人にとって卓球は特別な存在だ。「ピンポン外交」という言葉もあるように、これまでも卓球による交流をきっかけに新たな国交が拓かれるなど外交面でも大きな役割を果たしてきた。今回の友好交流卓球大会も、両県省のこれまでの信頼関係と今後の将来性を象徴するイベントとして位置づけられるだろう。

高い評価を受けた地域間交流のモデルケース

静岡県は1982年4月、浙江省と友好協定を締結し、これまでに防災・環境保護、経済、農業、医療衛生、教育、文化・音楽、観光などの多くの分野で積極的な交流を進めてきた。その間、2009年には富士山静岡空港が開港し、上海路線の就航によりアクセスが向上するなど、静岡県と浙江省の交流は、一層拡大している。

浙江省は、華東地区中部の東シナ海に面し、中国第4位の経済力を持つ。面積は静岡県の約13倍にあたる10万1800平方キロメートルを有し、人口は5477万人、省都は杭州市だ。長い海岸線や温暖な気候など、静岡県

重要性を増す地域外交

30年以上にわたる交流を経て、静岡県と浙江省は、着実に信頼関係を築いてきた。その実績を踏まえ、今後とも観光誘客、文化交流、企業の海外展開支援、青少年による交流などを積極的に展開していく構えだ。昨年からは、相互理解を促進するための「静岡県・浙江省フォーラム」も開催。今年は健康福祉などをテーマに実施し、自治体間交流を深めている。また、浙江省の省都である杭州市は、高級茶として知られる「龍井茶」の産地としても名高い。

互いに「茶の都」として協力し合い、茶文化を世界に発信していこうという動きもある。さらに、両県省の病院や図書館が個別に連携するなど、様々な分野で、自発的な交流も活発化し、より深く、より濃密な交流が各分野で進んでいる。

友好協定が締結された1982年当時、中国、そして浙江省の経済は発展途上にあり、静岡県側のメリットは少ないと言われたこともあった。しかし、その後の同国の躍進は、改めて説明するまでもないであろう。友好的互恵関係を構築するパートナーとして、浙江省は、本県にとって一層重要な存在となっている。

様々な懸案を抱える日本と中国。しかし、そうした時代だからこそ、地域間の交流に期待されるものは大きい。地域間交流のモデルとも言われる静岡県と浙江省との地域外交は、両国の外交にも一石を投じるかもしれない。



静岡県・浙江省友好交流卓球大会で中国チーム代表と握手を交わす静岡県知事。



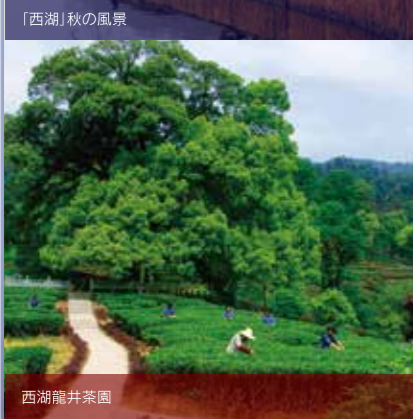
静岡県・浙江省友好交流卓球大会では両県省の老若男女が熱戦を繰り広げた。



2014年8月、浙江省の省都・杭州市で行われた日中青年代表交流。



「西湖」秋の風景



西湖龍井茶園



世界遺産「西湖」と浙江省の省都「杭州市」

写真提供：杭州市旅遊委員会

